

共立女大家政 柏木 希介
○近藤 憲子

1. 茜染の研究に引続いて古代の赤色系染料について検討し、すおう・紅花などの色布と比較しながら法隆寺裂れと鎌倉時代の赤裂れの染料が何であるかについて考察する。

2. 植物色素の分析には微量の試料を用いて非常に有効なクロマトグラフ法が応用できるので赤色系の草木染であるすおう・紅花・茜などについて分析を行った。その分析も直接植物からでなく一度染織したものを紫外線照射してから抽出した。更にひるぎ・いちいなどをも含めて長時間の日光堅牢性を検討する。それらの結果と法隆寺裂れ(広東錦)の微小試料などから抽出した色素のクロマトグラムと比較し色の解析結果と併せて判定する。

3. ブタノール酢酸水の展開溶媒を用いて展開したペーパークロマトグラムの結果から法隆寺裂れと鎌倉時代の鎧の緒の赤色はすおうや紅花ではなく、南方系の茜である事が推定された。更に日光堅牢性の実験から西洋茜を除いたほかの赤色系染料が黄色側に変色するのに対し、アリザリン・プソイドプルプリンを主成分とする西洋茜のみ変色し難い事が分った。これらのデータから従来すおうの染織であると考えられた古代赤色染料が茜系であることが結論される。